

平成 27 年度  
富士河口湖町教育委員会点検及び評価報告書  
(平成 26 年度対象)

平成 27 年 8 月

富士河口湖町教育委員会

## 目 次

第 1 章	教育委員会評価の概要	2
1	評価の趣旨	2
2	評価のしくみ	2
3	点検及び評価の対象	2
4	評価の方法	3
5	評価委員	3
第 2 章	昨年度評価委員の所見への対応状況	4
第 3 章	教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価	6
1	教育委員会の仕組	6
2	教育委員の構成	6
3	教育委員会の開催状況	6
4	学校訪問の実施状況	7
5	教育委員会の活動状況の評価	8
1	教育委員会の会議の運営状況	8
2	教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	8
3	教育委員会と首長との連携	9
4	教育委員の自己研鑽	9
5	学校及び教育施設に対する支援・条件整備	9
6	人を育む教育・五感文化のまち事業の評価	10
1	幼児教育の充実	10
2	学校教育の充実	10
3	生涯学習活動の支援	16
4	家庭・地域の教育力の向上	21
5	歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成	23
6	スポーツ・レクリエーション活動の支援	27
7	男女共同参画の推進	30
第 4 章	評価委員による総合的所見	33
第 5 章	総合評価	34
	(評価委員からの意見を踏まえ、総合的評価を行い、次年度への課題及び今後の方向性を示す。)	
1	学校教育課	34
2	生涯学習課	35
3	文化振興局	37

# 第 1 章 教育委員会評価の概要

## 1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 26 条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、富士河口湖町教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

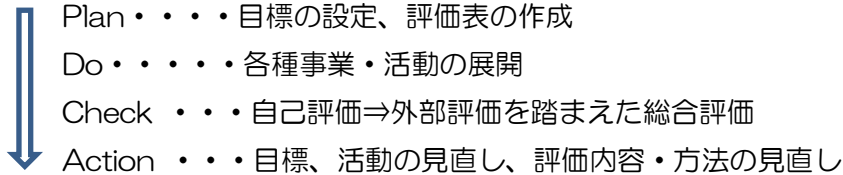
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 評価のしくみ

### 教育委員会

\* 教育委員会は、教育に関する施策の自己評価を行い、外部評価委員の意見を踏まえ総合評価を行う。以下の PDCA サイクルにより施策の展開を行う。



### 外部評価委員（以下「評価委員」という。）

\* 教育委員会の自己評価に対し、意見、助言を行う。

### 議会

\* 教育委員会は、毎年、事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その報告書を議会に提出しなければならない。

### 公表

\* ホームページに報告書を掲載する。

## 3 点検及び評価の対象

### (1) 対象

本町では、平成 20 年度から 29 年度を目標とする第 1 次富士河口湖町総合計画基本構想を定め、計画的な行財政運営を行ってきた。この基本構想の計画期間である 10 年間のうち、後期 5 年（平成 25 年度から平成 29 年度）に向けて町が向かうべき姿を明確にするため、また町づく

りを推進していくための基本的な方針を「第 1 次富士河口湖町総合計画後期基本計画」として、町では平成 25 年 3 月に策定し公表した。

点検及び評価の対象は、この「第 1 次総合計画後期基本計画」の第 3 編「基本計画」のうち、「第 2 章 人を育む教育・五感文化のまち」の教育委員会関係の平成 26 年度実施の重点事業を対象とし、その内容及び進捗状況を評価する。

【重点事業】

①新規事業

②継続事業のうち、特色ある事業、予算規模の大きい事業、特に報告の必要がある事業

#### 4 評価の方法

(1) 自己評価

各主管課及び教育委員会による自己評価を行う。

(2) 評価委員からの意見の聴取

評価委員から意見を聴取

自己評価に対する意見、助言

(3) 評価委員による各事業の評価

A＝達成している(100%) B＝ほぼ達成している(80%以上)

C＝改善の余地がある(60%以上) D＝達成していない、改善すべき(50%以下)

(4) 評価委員による総合的所見

事業のヒアリング終了後、外部評価委員から総合的所見をいただく。

(5) 総合評価

自己評価に対する外部評価委員からの意見等を踏まえ、総合的な評価を行い、次年度への課題、今後の方向性を示す。

#### 5 評価委員

点検及び評価の実施にあたっては、その客観性を確保するため、本町の教育行政に大きく携わり、教育に関して学識経験を有する次の方々には評価委員を依頼し、教育委員会内で行った点検及び評価について意見、助言をいただきました。

役 職 名	氏 名	住 所
委 員 長	古屋 庄一	富士河口湖町小立 1621-5
副 委 員 長	渡辺 秀樹	富士河口湖町西湖西 14-1
委 員	八色 正代	富士河口湖町勝山 4653-2

## 第2章 昨年度評価委員の所見への対応状況

平成 25 年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価における評価委員からの改善点や今後の方向性などの所見等について、今年度の教育委員会の対応状況について以下のとおりまとめた。

評価・意見	対応・検討状況
<p>教育委員会の会議の公開、住民への情報発信については、委員会の告示のみで会議の公開や会議録の公表がされていないので速やかに実施すること。</p> <p>町長との意見交換会の回数を多くすること。</p>	<p>開かれた教育委員会として、会議の公開や会議録の公表について検討します。</p> <p>教育施策の整合性を図るために、教育委員会と町長、副町長との意見交換を2回実施し、貴重な意見を教育行政に生かしていく。</p>
<p>複式学級の解消のための町単教職員の配置や支援員の必要な児童生徒の増加や不登校や引きこもりなどの児童生徒の解決に向けた支援をする更なるSSWの充実。</p> <p>教育機器の充実については、設備や教材の提供を、常に時代に即応したものにする。</p> <p>学力向上に向けては、家庭学習の習慣付けの重要性を家庭と連携し、啓蒙する。</p> <p>船津小学校の改築等については速やかに検討する。</p>	<p>教育環境をさらに改善するため、町単教諭・ALT・支援員・スクールソーシャルワーカー（SSW）などの人的配置を充実していく。今後増える傾向になるので継続して配置していきたい。</p> <p>ICT機器の導入を積極的に進め、児童生徒に学力向上の機会としていく。</p> <p>施設の在り方について将来を見据えた改築を含めてよりよい教育施設整備を検討する為に建設検討委員会を設置し検討していく。</p>
<p>子ども未来創造館まで足を運んでこられない保護者の方々に対する対応。</p>	<p>遠隔地でなかなか足を運ぶことのできない保護者に対する対応、移動教室を実施するなど幼児教育の更なる充実を図っていく。</p>
<p>各地区に応じた学習活動の支援が必要であり、その地区の実情を把握して、より機能的で効果的な支援体制を整えていく。</p>	<p>各地区における生涯学習環境の実情をさらに把握し、その地区にあった学習支援体制を確立していくとともに、現状実施している支援内容を再吟味して、地域住民のニーズや時代の流れに沿った新たな企画や事業を開拓し、幅の広い生涯学習環境を整備していく。</p>
<p>これまで中核的な役割を果たしてきた町民会議の在り方については、根本的な見直しと改善。</p>	<p>形骸化しつつある町民会議については、町長部局や教育委員と協議している。</p>
<p>民俗資料などを収納・展示する施設については、既存施設の利用状況を検証して、対応策。</p>	<p>民俗資料などの展示や保護活動については、勝山歴史民俗資料館の利用方法を検証する。</p>
<p>「クラブ富士山」の会員人数の減少傾向もあり、運営や活動方法を検討していく。カヌーやボートといった競技団体の事務局や運営を担わされている状況の中で、職員体制や役割分担などを見直し、活動している団体の実情に合った</p>	<p>「クラブ富士山」での会員増加策を検討していくとともに、カヌーやボートの競技団体との協議も行い、協会との対応の在り方についても検討している。スポーツ推進員との連携も図り、スポーツ・レクリエーション活動が全町的に広がるよう努</p>

支援策を実施する。	めている。
<p>国や県から降ろされた施策ではなく、地域に根ざした様々な施策の実施する。また、様々な分野での女性の登用率向上による男女格差の是正していく。</p>	<p>男女共同参画推進委員会の活動の活性化を図り、町の施策として取り組むべき内容を明確にし、具体的な男女共同参画の推進を目に見える形にしていく。</p>
<p>梶原林作基金助成金事業などをより多くの方にこの助成事業を周知するための工夫をする。</p> <p>文化施設の整備については、各施設とも建築から20年以上経過しているので計画的な修繕。</p>	<p>梶原林作基金助成事業については、年度初めに広報紙、ホームページ等でお知らせし、申請期間を設け受付していますが、今後は、募集時期の検討等、申請し易い工夫と啓蒙を図っていく。</p> <p>施設整備については、早期に修繕計画を立て、長寿命化を図っていく。</p>

### 第3章 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価

#### 1 教育委員会の仕組

教育委員会は、非常勤の委員をもって組織し、これら委員の合議により、幅広い視点から基本方針を決定し、その決定を受け、教育長が、事務局を指揮監督し、事務を執行する。

委員会の委員は、町長が議会の同意を得て、人格が高潔で教育学術文化に関し、識見を有する者から任命する。教育長は、教育委員会が、その委員のうちから選任する。

#### 2 教育委員の構成

職	委員長	委員長職務代理	委員	委員	教育長
氏名	倉澤 和代	流石 静雄	渡邊 東作	北澤 良男	梶原 正孝
任期	H24.12.22 ~H28.12.21	H25.12.22 ~H29.12.21	H23.12.28 ~H27.12.27	H26.12.22 ~H30.12.21	H24.12.22 ~H27.12.27

#### 3 教育委員会の開催状況

開催回数 定例会12回、臨時会5回

区分	開催年月日	付議の主な内容
第1回定例会	26.4.23	①管内学校訪問について 春と秋の2回実施する。全学級の授業参観と学校長との面談 ②インターハイについて 7月30日から8月10日に開催する全国高等学校総合体育大会の概要 ③ウルトラトレイルマラソンフジについて
第2回定例会	26.5.21	①山梨県教育功労者表彰候補者について ②管内学校訪問について
第3回定例会	26.6.27	①町文化財保護事業補助金要綱について ②インターハイについて ③小学校教科書採択について
第4回定例会	26.7.25	①小学校教科書採択について ②町文化財の諮問について 本栖の公家、西湖の薬明神社、根場の薬明神社 ③生涯学習館のフリースポットについて 図書館内でのフリースポットの利用 ④町民体育館の耐震補強計画について
第5回定例会	26.8.27	①インターハイについて ②学校の統廃合について 学校の統廃合の方向性を検討
第1回臨時会	26.9.16	①学校の統廃合について

		西浜中学校の統合について経緯と現状 ②教育委員会関係規則の改正について 就学援助費支給規則の一部改正
第6回定例会	26.9.26	①スポーツ、文化の全国大会等出場補助金交付について ドッジボール日本代表に5万円を補助 ②子ども未来創造館の利用について ③学校の統廃合について 西浜中学校保護者との懇談会について協議
第2回臨時会	26.10.15	①町教育功労者の選考について
第3回臨時会	26.10.23	①西浜中学校保護者へのアンケートについて アンケート項目について協議
第7回定例会	26.10.30	①秋及び春の叙勲候補者の推薦について ②もみじマーチの結果について ③町文化祭について
第4回臨時会	26.11.7	①西浜中学校保護者アンケート結果について
第8回定例会	26.11.28	①町指定文化財、圓通寺との防災協定について ②西浜中学校の統合について
第9回定例会	26.12.5	①来年度予算について ②教育センターの移転について ③西浜中学校の統合について 12月4日の保護者会の経緯
第5回臨時会	26.12.24	①教育委員会の構成について ②西浜中学校の統合について
第10回定例会	27.1.26	①男女共同参画フォーラムについて ②中央公民館祭りについて ③世界文化遺産活性化事業について ④西浜中学校の統合について アンケート集計結果 ⑤富士山河口湖映画祭について
第11回定例会	27.2.24	①西湖ロードレースについて ②世界遺産「富士山」とその芸術文化を活用した地域活性化事業について ③卒業式、入学式について
第12回定例会	27.3.25	①町指定文化財の建議について ②教育センターと女性交流センターの移転について

#### 4 学校訪問の実施状況

開催回数 5回 授業参観及び学校長との懇談、施設見学

区分	開催年月日	訪問校（参観学級数）
第1回	26.6.9	西浜小学校（5学級）、西浜中学校（3学級）



第2回	26.6.20	船津小学校（21学級、特別支援3学級）
第3回	26.6.27	勝山小学校（6学級、特別支援2学級）、勝山中学校（4学級、特別支援1学級）
第4回	26.10.30	河口湖北中学校（4学級、特別支援1学級）、大石小学校（6学級、特別支援1学級）、河口小学校（6学級）
第5回	26.11.18	富士豊茂小学校（4学級）、小立小学校（12学級、特別支援2学級）、大嵐小学校（5学級）

## 5 教育委員会の活動状況の評価

### 1 教育委員会の会議の運営状況

事業名	教育委員会の開催	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	教育委員会を開催し、 ○教育に関する事務の管理・執行の基本的方針に関すること ○教育委員会規則・規程の制定、改廃に関すること ○教育委員会所管の学校・教育機関の設置、廃止に関すること ○教育委員会やその所管の学校等の職員の任免その他人事に関すること ○教育に関する事務の管理・執行の状況の点検・評価に関すること ○教育事務の予算その他議会の議決を経るべき事項の議案について長に具申する意見に関すること等を協議、決定し、執行或いは町長に具申する。		
取組の状況と今後の方向性	毎月1回の定例会と臨時会5回開催。教育委員会の各課（局）における課題、案件を協議・決定している。今後は、当該年度の事業状況についてヒアリングを行い執行管理する。		
実績・自己評価	定例会を12回、臨時会5回開催した。会議では、各課（局）における課題、案件を協議し決定している。各委員から各々の立場から積極的な意見や提案があるので、今後も12回以上の開催を行う必要がある。臨時会では、課題である学校の統廃合について検討協議した。		
評価委員の意見	定例会、臨時会の回数を重ね、積極的に取組んでいる。		

### 2 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

事業名	会議録の公開、広報・広聴活動	評価委員の評価	C
事業の趣旨・概要	委員会の会議の公開は、平成13年の地教行法改正で、全ての自治体に義務付けられた。会議開催予定を積極的に広報するとともに、会議の開催後できるだけ速やかに会議録を作成し、ホームページなどにより公開することが望まれる。		
取組の状況と今後の方向性	委員会開催の告示をしているのみで、広報やホームページなどでの周知はできていない。今までは、傍聴者がなく、また会議録の公開もしていない状況である。今後は、委員会の開催のお知らせと会議録をホームページ等で公開する必要がある。		
実績・自己評価	住民の皆さんに、教育委員会において、各課（局）における課題、案件の		

	協議・決定の過程を理解していただけるよう、会議や会議録の公開を行わなければならないが、実施していない。今後、方法を検討し行う必要がある。
評価委員の意見	昨年度からの課題が改善されていない。公開が望まれる。

### 3 教育委員会と首長との連携

事業名	教育委員と町長との意見交換会の開催	評価委員の評価	B
施策の趣旨・概要	町長と教育委員とが教育の様々な課題について意見交換し、考えや思いを語り、町の教育の方向を明確にし、実現に向けて町と教育委員会が協力し合いながら進めていくために懇談会を開催する。		
取組の状況と今後の方向性	6月27日と12月5日に町長、副町長との懇談会を開催した。今後は、平成27年度から地方教育行政に関する法律の改正により、教育委員会制度が変わり、これまで以上に、教育委員会と首長との連携強化が図られる。町長が招集し、町長と教育委員で構成される「総合教育会議」が町長との意見交換、協議、調整の場としていく。		
実績・自己評価	学校統廃合、湖南中の位置づけ、複式学級の解消、通学路の安全、等々多くの案件について意見交換を行った。町長の基本的な考えを理解できるので、今後も教育委員会として、意見交換会を開催する必要がある。		
評価委員の意見	回数を増やして、さらに積極的に取組む必要があると思われる。		

### 4 教育委員の自己研鑽

事業名	研修会への参加	評価委員の評価	A
施策の趣旨・概要	教育委員が教育行政の運営に関し、適切な判断と決定を行うためには、教育委員として教育行政の課題等に関する深い理解と知識を有することが必要であるために、教育委員は、研修会へ積極的に参加する。		
取組の状況と今後の方向性	南都留市町村教育委員会連合会主催研修会 山梨県市町村教育委員会連合会主催研修会 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会主催研修会 毎年度上記研修に参加している。今後も参加する。		
実績・自己評価	各教育委員会連合会による研修は、現状における教育の課題についての研修が多く、有意義であった。今後も参加する必要がある。		
評価委員の意見	内容について問題点はあるが、参加状況は良い。		

### 5 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

事業名	学校訪問及び教育施設訪問	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	教育委員会と学校現場が互いに共通認識を持ち、より良い学校教育を推進することを目的に実施する。教師が実際に指導や子どもたちの様子を把握し、取り組みの状況や課題、教育の在り方について意見交換を行う。全ての		

	学年・クラスを授業参観して、教師の指導、子どもたちの様子を把握する。
取組の状況と今後の方向性	全小中学校を1回訪問し、全クラスを参観したあと学校長、教頭と意見交換した。今後も実施する。
実績・自己評価	全クラスを参観することで、学校の教育環境、教師の指導、児童・生徒の授業姿勢を観察できるので、今後も続けていく必要がある。
評価委員の意見	最低でも2回は必要と思われる。取組みの検討をしてほしい。

## 6 人を育む教育・五感文化のまち事業の評価

### 1 幼児教育の充実

#### 基本方針

幼児期教育は、子どもの性格、人間形成にもっとも大きな影響を与えとも考えられています。この大切な時期に的確な教育を与えられるよう、地域ぐるみの支援を促進するとともに、本町の豊かな自然や文化などに触れられるよう、さらなる幼児教育推進に努めていきます。また、地域、家庭、保育所、幼稚園、小学校と連携して、幼児が健やかに成長するよう環境の充実を図っていきます。

#### 施策の内容

##### ①幼児教育環境の充実

#### 主な事業

- 子ども未来創造館において、利用者の意見を聞きながら事業内容を研究し、子育て支援の推進を図ります。また、子育て支援に関わる関係各課と連携し、地域・家庭・保育所との支援体制の確立をはじめ、一人の児童に接する機会として、学校における生活情報など学校関係者との連携や県の児童相談所を含む県・町・学校の連携を図ります。

事業名	カンガルー教室	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	発達課題を持った幼児も親も住みやすく、全ての児がその見らしく育っていくことを目指した事業。		
取組の状況と今後の方向性	健康増進課、福祉推進課、生涯学習課が連携し、保健師、保育士といった専門職との連携で、効果的な支援体制を築いている。幼児の成長に合わせ、学校教育現場との連携をしながら、支援を行っていきたい。		
実績・自己評価	親の心のよりどころの場となり、スタッフに相談したり、幼児の特性に気づき、関わり方を学ぶことが出来る。製作や集団遊び、音楽療法を通じて幼児の発達を促している。		
評価委員の意見	連携・共有化している。今後さらに充実してほしい		

### 2 学校教育の充実

## 基本方針

施策の展開として、今後も少人数指導や複式授業解消のための町単教諭配置、教育相談員による児童生徒の相談、ALTによる国際教育、「人づくり学校づくり補助事業」などを継続していくとともに教材機器の整備拡充を進めます。また、老朽化した学校施設の補修も順次進め、安全で快適な学習環境の推進に努めます。

また、いじめや不登校といった問題に対しても、児童生徒が自らの意思で伸び伸びと学校に通えるよう早期発見・解決を目指した相談体制を充実させていきます。

一部地域においては、人口及び児童生徒数の減少により少人数学級が存在する。将来的な児童数の推移や地域の意向などを見据えたなかで、小中学校の適正規模化、統廃合も検討していきます。

障害を持った子どもたちへの支援は、特別支援学級や普通学級のいずれに所属していても適切かつ自立に向けて細やかな指導が行えるよう町単独による支援員を配置し、障がいの実態に即した学習指導に努めます。また、富士河口湖町適正就学推進委員会を立ち上げて、児童生徒の入学、入級が適切に行える体制を構築します。

## 施策の内容

- ① 教育環境の改善・充実
- ② 教育内容・指導の充実
- ③ 特別支援教育充実
- ④ 家庭・地域、保幼小中の連携と交流を深め、心の教育を推進します。
- ⑤ 効果の上がる教育環境整備のために学校適正配置の施策を計画的に推進していきます。

## 主な事業

### 2 老朽校舎を順次計画的に改善していきます。

事業名	小中学校校舎等修繕工事	評価委員の評価	C
事業の趣旨・概要	校舎・体育館・プール等の破損個所の修繕をし、子どもたちが安全に安心して学校生活ができるようにする。		
取組の状況と今後の方向性	学校からの要望を基に予算化し対応する。突発的な修繕工事も多いが、迅速な対応で児童生徒の安全第一の学校づくりを目指していく。		
実績・自己評価	緊急性のある危険個所を優先した予算組みで、順次、修繕・取替等を行った。突発的な強風や大雪等、天災による被害もあったが補正対応等により迅速に対処できた。町立の学校での耐震補強工事は終了しているが、船津小学校校舎の老朽化が激しく雨漏り等も解決できない状態である。災害の時の避難経路についても複雑なので児童の安全性を考慮し新校舎建設を検討するため建設検討委員会を2月に設置した。		
評価委員の意見	予算を確保し、早急に対応する必要があると思われる。		

### 3 学校の教育力向上のため、町単教諭、ALT、支援員、スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置します。

事業名	町単職員加配事業	評価委員の評価	A
-----	----------	---------	---

事業の趣旨・概要	よりきめ細かい教育指導のため、町単で教諭・ALT・支援員・スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置する。
取組の状況と今後の方向性	① 複式授業解消及びきめ細かな授業支援のために町単教諭の配置 ② 学校内での学習及び活動支援を必要とする子どもに支援員の配置 ③ ネイティブな英語・異文化交流のための ALT の配置 ④ 複雑な問題を抱える子供のために SSW の配置 以上を町単費で配置している。 どれも児童生徒の健全な学校生活及び成果のある学習のために不可欠な事業なので継続し、必要に応じて増員していきたい。
実績・自己評価	① 平成 26 年度は町単教諭を、小学校に 7 名、中学校に 3 名配置し、少人数での学習及び複式授業を解消することができたので状況に応じて配置していきたい。 ② 小学校生活において支援が必要な子供に支援員を 14 名配置した。支援員は支援を必要とする子どもだけでなく他の子どもの学習の補習もできるので学校の状況を考慮して増員したい。 ③ ALT は業者委託して全小中学校に 3 名を派遣し、充実した英語授業で活用している。また、子どもたちとの触れ合いの中で異文化交流もできたので継続していきたい。 ④ 町単費で SSW を導入した。本人のみならず家庭に問題がある児童生徒（いじめ、不登校、ひきこもり、育児放棄、虐待等）は関係部署と連携をとり問題の解決に努めている。今後は年々増加傾向にあるので SSW を常勤にして継続していきたい。
評価委員の意見	充実しているが、今後もさらに十分な加配をお願いしたい。

#### 4 教育機器を充実させ、授業の充実に努めます。

事業名	ICT 活用事業	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	ICT 機器を授業に取り入れることで、授業の効果を上げていく		
取組の状況と今後の方向性	各学校に 5 年リースでパソコン及びソフトを導入している。今後は授業ソフトをより効果のあるものに変え、児童生徒が興味を引く ICT を活用した授業を進める必要がある。		
実績・自己評価	小学校 4 年生から中学校 3 年までのクラスに電子黒板機能付きプロジェクターなどの機器を整備したので他の学年に順次整備していきたい。船津小学校にタブレットパソコンを導入し、先生とのやり取りを通じてわかりやすい授業と情報活用に努めていく。		
評価委員の意見	他校への導入も含め、今後もさらに充実をはかったほしい。		

#### 5 安全・安心な学校づくりのため地域保護者とも連携して多様な取組みをします。

事業名	通学路の安全点検	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	道路管理者・警察署と通学路の危険箇所を点検し、対応策を協議し、通学		

	の安全を図る。
取組の状況と今後の方向性	通学路については児童生徒の安全を第一に考え迅速な対応をしていく必要がある。「通学路交通安全プログラム」に沿って毎年、点検・対策を継続していく。
実績・自己評価	平成26年度中に行った点検個所の対応策について道路管理者と連携して押し進めた。残っている箇所について平成27年度中には完了予定である。
評価委員の意見	さらに安全確保に努めてほしい。

## 6 環境や文化、自然に関する地域教材を積極的に取り入れた授業を実施します。

事業名	①富士山学習・②川の学習・③木工の学習	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	<p>①富士山学習研究会を発足させ、富士山学習を各校の教育課程に位置付け、授業を実施してきた。富士山科学研究所やビジターセンターと連携して出前授業を実施した。</p> <p>③ 西湖野鳥の森公園内の施設を利用し、3・4年生の図工の授業（木工の学習）を実施した。また、都留市内の川を利用し5年生の理科の授業（川の学習）を実施した。</p>		
取組の状況と今後の方向性	<p>①共通して実施できる学習プログラムの開発や、指導計画の見直しを実施した。今年度は専門機関との連携をさらに深め富士山学習の充実を図っていく。今まで開発した学習プログラムの定着を図る取り組みを実施する。富士山学習に関する教職員の研修会を実施する。</p> <p>②③学習指導要領に即し児童が興味を持てる内容で実施するとともに、教職員研修も実施し安全確保については十分に留意していく。</p>		
実績・自己評価	富士山の世界文化遺産登録を契機により富士山に対する関心が高まっている中、富士山学習を教育課程にきちんと位置付け系統的に富士山について学べるようになった意義は大きい。木工の学習も川の学習も児童が興味を持ち意欲的に取り組んでいる。		
評価委員の意見	良い取組となっている。今後も継続、充実してほしい。		

## 7 町内施設を活用したり、学校の環境を生かした特色ある教育課程を実施します。

事業名	① 校外学習②総合的な学習の時間	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	<p>① 校外学習において、西湖いやしの里・コウモリ穴・野鳥の森公園・フィールドセンター等で活動を行う。</p> <p>② 総合的な学習の時間において、町立図書館や子ども未来創造館、消防署等を訪問する。</p> <p>③ 学校近隣の田畑を活用し地域の方々の協力も得ながら、コメ作りや野菜作りに取り組んでいる。</p>		

取組の状況と今後の方向性	各校が、校外学習や授業等で、町内にある豊かな自然を活用した施設や文化施設を利用している。また、近隣の田畑を利用し作物を育てるなど、子どもたちの豊かな感性を養うためにも、今後も積極的な利用が考えられる。
実績・自己評価	上記施設以外にも中学校のキャリア教育の一環として、職場見学で地域の企業を訪問したり、地域を知る学習で神社などを訪れる等、町内施設を有効に活用している。
評価委員の意見	有効に施設等を活用し、効果的に実施されている。

8 指導内容の重点化を図り、基礎基本を重視した指導を行います。

事業名	①学力向上への取り組み・②校内研の充実 ③河教内公開の実施・④電子黒板等の活用	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	①②基礎的基本的な知識技能の習得や、それを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育成するため授業を工夫したり、学習習慣をつけるための家庭との連携等について校内研究等を通して取り組みを進めている。 ③各校での授業実践を河口湖畔教育協議会内で公開し、互いに学びあっている。 ④導入された電子黒板やデジタル教科書を活用し、効果的な学習の実践に取り組んでいる。		
取組の状況と今後の方向性	①②多くの学校が校内研究のテーマに「確かな学力」「学習意欲」「伝える力」を設定し、研究を推進している。平成26年度～28年度には、勝山小中が「県教委指定授業改善プラン実践事業」へ取り組む。 ③河教内公開も数多く実施し、教師が学びあっている。 ④電子黒板やデジタル教科書を多くの教職員が有効に活用できるようICTスキルアップ講座を実施していく。		
実績・自己評価	授業方法の改善・個に対応した指導・家庭学習の習慣化に向けた取り組みなど、積極的に実施している。また、多くの学校で、導入した電子黒板やデジタル教科書を積極的に活用している。		
評価委員の意見	要望や時流に沿ってさらに充実、拡充を図ってほしい。		

事業名	教職員研修	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	教育センターで、教職員の資質向上に向け次のような研修を実施している。 ①新転入新採用教職員等郷土学習会 ②町単・期採・代替職員研修会 ③カウンセリング講座 ④外国語活動研修会 ⑤川の学習職員研修 ⑥ICTスキルアップ研修（今年度より） その他、特別支援教育研究会や富士山学習研究会を組織し、独自に研修を進めている。		

取組の状況と今後の方向性	それぞれの研修において、専門的知識を持つ講師をお願いし、学校現場で活かせるような研修を実施している。研修ごとにアンケートを実施し次年度の改善につなげている。
実績・自己評価	町内各校から多くの教職員が参加し、充実した研修になっている。
評価委員の意見	様々な研修が効果的に行われている。

9 特別支援教育充実のために、適切な就学指導を行うための体制を整備します。

事業名	適正就学指導	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	発達に遅れがある子供について、特性に合った就学先を指導する。		
取組の状況と今後の方向性	福祉推進課の児童担当と一緒に幼稚園・保育所を訪問して課題のある子供の情報を収集し、学校の担当も交えて、情報の共有・今後の就学について検討した。		
実績・自己評価	各保育所・幼稚園・学校との共有はできたが、その先の各機関内での情報の共有の仕方・引継に課題がある。また、親の受け止めがマイナスの場合の指導の方法についても考えていく必要がある。		
評価委員の意見	連携、共有が図られている。親の指導は検討する必要がある。		

10 特別支援教育充実のために、必要な教育環境を整えます。

事業名	特別支援教育の充実	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	特別支援学級に在籍している児童生徒の心身ともに豊かな教育、より成果のある教育の実現を図る		
取組の状況と今後の方向性	入級または在籍する児童の状況をよく把握したうえで、その子が安全に成長でき、成果のある学習を身につけるための環境整備を図る。次年度からも子どもの発達状況に応じて対応していきたい。		
実績・自己評価	新たに設置された難聴学級や知的学級の教育教材を事前に学校と保護者や前の学校から事情を聴取して整備した。より成果のある授業にするためにも整備は必須である。		
評価委員の意見	さらにきめ細やかな対応をお願いしたい。		

11 家庭・地域、保幼小中の連携と交流を深め、心の教育を推進します。

事業名	①道徳授業公開②保小中連携推進協議会	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	①道徳の授業を保護者や地域に公開したり、地域の人材をゲストティーチャーとして招いたりして、学校家庭地域が連携した心の教育を推進する。 ②保小中連携推進協議会を発足し、情報交換を密にすることで子どもたちの学校生活の充実を図る。		
取組の状況と今後の方向性	①道徳の授業公開は多くの学校で実施している。家庭地域との連携を図る大切な手段として積極的に実施していく。 ②連携をより深めることで、子どもたちの情報がきちんと伝えられ、適切な		



	指導支援につながっていく。
実績・自己評価	発足したばかりの保小中連携推進協議会が有効に機能するよう取り組んできた。特に保小間ではかなり連携が進んでいる。
評価委員の意見	さらに連携し、内容を深めていく必要がある。

事業名	教育相談	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	教育センターに相談員2名を配置し、主に来所や電話による相談を行っている。また、不登校児童生徒の学習支援等も行っている。		
取組の状況と今後の方向性	26年度の教育相談数は、実数で電話相談32件、来所相談117件、訪問相談19件、総数で166件、述べ件数にすると608件となっている。 また、不登校児童生徒の支援は小学生3名で、学校とも連携しながら、学習室での学習支援等を行った。学校や家庭との連携の中で、学校に戻すことを目標にして取り組みを進めている。現在中学3年生の女子が毎日センターに通ってきている。		
実績・自己評価	不登校児童生徒については、小学5年児童は現在6年になり登校を続けている。小学6年の児童2名のうち、1名は中学に登校しているが、もう1名は5月より不登校気味になり現在センターでかかわっている。		
評価委員の意見	連携を取りながら良い取組状況である。		

12 より効果の上がる教育環境整備のために学校適正配置の施策を計画的に推進していきます。

事業名	学校の統廃合	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	教育指導や学校運営にあたっては適正な規模を保つことが望ましい。本町の小規模校の統廃合について、小中学校適正配置審議会から平成21年に答申された。この答申では、適正配置の実施について平成28年度完了を目途に行うものとされた。		
取組の状況と今後の方向性	西浜中学校の現状について検討する意見が教育委員会で提言されたので小中学校の保護者、学校関係者、地区説明会で懇談をして27年度の1年間を生徒たちに不利益にならないよう統合への準備することになった。		
実績・自己評価	学校訪問を行い、児童生徒の現状の把握に努めて良好な学習環境が整わない学校に対して教育委員会として意見を出していく。		
評価委員の意見	先を見通した大きな展望や計画が必要と思われる。		

### 3 生涯学習活動の支援

#### 基本方針

すべての住民が生涯を通じて、多様な学習活動や文化活動、スポーツ活動などに取組み、豊かな交流のなかで生活を楽しめるよう、総合的な生涯学習情報の提供、家庭、地域社会、学校、行政の連携など、「いつでも・どこでも・だれでも」学び続けられる、生涯学習のまちづくり推進体制の整備を進めます。

また、近年、学習の高度化や多様化が進み、住民一人ひとりが、生涯を通じて新しい知識や技術を身につけ、生きがいを持って充実した生活ができるよう、学習機会と場を求めています。学習者のニーズの把握とともに必要となる学習を提供するため、「ライフワーク発見講座」の開催や、地域の大人が学習支援者となる「きらめき子ども塾」制度などの充実を図ります。さらに、家庭教育分野においては、「子育てサポーター」の養成をはじめ、相談窓口の充実など、子育ての社会化に向けた取組みを一層進めます。

## 施策の内容

- ①生涯学習推進体制の充実
- ②生涯学習活動の推進
- ③生涯学習施設の充実

## 主な事業

### 13 指導者、ボランティアの確保と養成を行い、発表、活動の場づくりを提供します。

事業名	ボランティア養成講座	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	家庭教育の支援を図るため、様々な子育て支援交流事業の際に、共に活動し支援のできるボランティアを養成する講座を開催する。		
取組の状況と今後の方向性	7回の講座を開催し、ボランティアに必要な知識の習得を行っている。15名参加。今後も、新規のボランティアが増えるように、広報していく。		
実績・自己評価	子どもの遊び、発達段階における子どもの様子の他、救急法や自分らしく生きるためのポイント等も学べ、実践できる講義内容で好評価を得られた。ボランティアとしての役割が理解でき、地域の為に協力していただいている。		
評価委員の意見	参加人数を増やす必要があると思われる。		

事業名	図書館ボランティアとの協働による図書館運営	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	行政とボランティアがそれぞれの特性を認め合い活かしながら連携協力した住民参加型の図書館サービスを展開する。		
取組の状況と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年度のボランティア更新調査と新規募集、ボランティア保険の加入</li> <li>② 各ボランティア団体の年間行事計画の打ち合わせと調整</li> <li>③ 図書館まつり「おはなし王国 2014」の計画立案と実施</li> <li>④ ボランティア研修会の実施</li> <li>⑤ 読書活動推進事業として、ボランティアに講師を依頼している。</li> </ul> 今後もボランティア協力者が生きがいや内的充実感が味わえるような協働を目指していきたい。		
実績・自己評価	平成26年度は行事ボランティアが8団体と業務、折り紙、布絵本、図書館友の会などの合計12団体114名がボランティアとして活動。通年のボランティア主体事業は定期読み聞かせ会など10事業、参加人数はのべ		

	1,436 人でした。読書活動の普及・啓蒙を目的とした管内の小学校・保育所・幼稚園・児童館からの読み聞かせの要望は高く、昨年度ボランティア「ブラウンベア」「魔女の宅急便」の派遣は 65 回。また、図書館友の会はプチ古本市の開催やハーブ製品の作成販売を行い、収益 30 万円を資料購入費として指定寄付した。ボランティア団体が実行委員として実施している「図書館王国 2014」はボランティア同士の交流と発表の場となっており、今後も継続していく。
評価委員の意見	ボランティアを増やし、利用しやすく充実させる必要があると思われる。

14 新たな学習システム(課題)に関する情報収集、提供、相談体制の整備とともに ICT (情報通信技術) を活用した学習機会の充実を目指します。

事業名	パソコン教室	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	パソコンの普及が進む昨今、老若男女問わず使用者が増えている。町民にもパソコンに親しんでいただくきっかけ作りを行う。		
取組の状況と今後の方向性	ワード、エクセルを中心に初心者を対象に開催。毎月6日間～12日間のべ34名が利用。H26は夜の部での開催だったが、H27は昼の部での開催とする。参加者は初心者が多く、入門コース問い合わせが多いため、今後も入門コースを中心に計画していく。		
実績・自己評価	前年度に比べ参加者が少なく、開催をやむなく中止する回もあった。募集方法を検討する必要がある。		
評価委員の意見	需要をとらえて広報を行い、参加者を増やす必要がある。		

事業名	ホームページによる情報発信と 24 時間サービス	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	生涯学習館のホームページによる新着案内や講座情報など新鮮な各種情報の発信する 図書館システムとホームページの連動による資料検索及び資料の直接予約、利用者の利用状況紹介、レファレンス依頼など 24 時間サービスを実施する。		
取組の状況と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ホームページによる情報発信と各種 24 時間サービスの提供。</li> <li>② ICT タグを利用した図書館システムによる自動貸出機の設定。</li> <li>③ 山梨県くらしネットとの連携による、リクエスト及びレファレンスサービスの提供</li> <li>④ 学校図書館とのネットワークシステムによる相互貸借の実施</li> <li>⑤ 山梨県図書館情報ネットワークシステムや国立国会図書館総合目録ネットワークシステムによる資料提供の実施</li> <li>⑥ 「はじめてのインターネット体験教室」の開催</li> </ul> 今後も引き続きこれまでの情報活動や相談体制を進めていく。		
実績・自己評価	ICT の活用は積極的に実施している。利用者より要望の高いフリースポットサービスは、予算が認められ平成 26 年 7 月より実施する。		
評価委員の意見	スマートフォンの対応も含め、さらに充実させてほしい。		

15 子どもから高齢者までの年齢層に合わせた学習機会の提供や学習グループの支援を進めます。

事業名	各種社会教育講座	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	町民が、学習した内容を趣味として家庭でも続けられること（趣味発見のきっかけづくり）を目的として各種教室を開催する。生涯学習ボランティアバンクに登録いただいている講師にお願いし、子どもから大人までそれぞれのニーズに合わせた内容の教室を開催する。		
取組の状況と今後の方向性	手芸教室、パン作り教室、リース作り教室、写真教室、つまみ細工教室、絵手紙教室、パステルアート教室などを実施し、延べ1,061名が参加。今後も住民のニーズに基づいて教室を開催していきたい。		
実績・自己評価	どの教室も参加者からは、好評を得ており、今後も住民のニーズを把握しながら継続して行きたい。		
評価委員の意見	ボランティアバンク登録を増やし、参加者の多様化を図る必要がある。		

事業名	読書活動推進事業の実施	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	資料と利用者を結ぶことを目的として、各種集会行事や講座を実施する。		
取組の状況と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 健康増進課との連携事業「母親学級」への「胎教としての読み聞かせ」や「妊婦向けの図書紹介」等を年4回実施。</li> <li>② 健康増進課との連携事業「ブックスタート」により、読み聞かせのすすめと10ヶ月児へ1冊「マイブック」として提供している。年12回</li> <li>③ 船津小学校の「朝読」事業への司書の派遣支援(のべ8人)</li> <li>④ 文学散歩、読書会、げんキッズクラブ、古文書講座、朗読会、絵本講座、講演会、科学実験など講座等の開催。今後も住民の興味を引く事業を企画し、今後も実施していきたい。</li> </ul>		
実績・自己評価	本と人を結びつける事業を企画実施し述べ5,165人の参加があった。		
評価委員の意見	様々な取組が好評である。		

16 身近な教育施設(公民館・分館等)を活用した学習活動の促進、子どもの読書活動を推進します。

事業名	3分館の運営と保育所との連携活動	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	子どもの読書活動推進を目的として、各保育所と連携しボランティアとの協働による「読み聞かせ事業」を実施する。		
取組の状況と今後の方向性	図書館の分館を大石・河口・上九地区公民館内に設置し、資料は生涯学習館で集中管理し分館運営を行っている。分館の利用は児童が利用の中心となっている。定期読み聞かせ会の開催は、上九保育所と河口保育所は分館に隣接しているため保育所と連携し、分館に来館して全員参加で実施している。大石分館については分館が遠いため園外保育の際に分館に来館し、本館職員が読み聞かせと臨時貸出する形で連携している。今後も継続し実施したい。		

実績・自己評価	分館の読み聞かせ参加状況は、述べ大石分館 86人、河口分館 438人、上九分館 148人となった。
評価委員の意見	分館がない地域の検討をし、さらなる充実をしてほしい。

### 17 富士山資料や地域資料、レファレンスサービスの充実と利用を推進します。

事業名	富士山及び地域資料の収集と提供	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	<p>図書館にとっての地域資料は、その地域の資料を収集し提供する義務を負っている。これらの継続収集と提供に努める。</p> <p>特別コレクションの「富士山資料」の収集も併せて収集と提供に努める。</p>		
取組の状況と今後の方向性	<p>当館で力を入れている特別コレクションの「富士山資料」の収集をする。山梨県域、市町村域別、富士河口湖町、渥美芙蓉、太宰治、武田信玄、古文書、郷土絵葉書等の区分で地域資料の収集をする。</p> <p>図書館としての収集義務があるため、特別コレクションと併せて収集に力を入れていきたい。</p> <p>レファレンス(参考業務)については、迅速、正確、丁寧を心がけ、職員全体で取り組んでいる。口頭でのクイックレファレンス(所蔵調査)などは日常的に行う。</p>		
実績・自己評価	<p>特別コレクションの「富士山資料」の収集は 2,847 点(H26 年度は 126 点の増加)。これは富士山周辺の図書館との比較では 1 番多い所蔵数である。地域資料は、9,195 点(H26 年度は 57 点増加)。H26 年度の利用実績は、富士山資料 1,080 点、地域資料 635 点であった。地域資料の利用は決して多くないが、図書館としての収集義務があるため、特別コレクションと併せて収集に力を入れていきたい。</p> <p>H26 年度のレファレンス回答件数は 2,175 件。引き続き、迅速・正確・丁寧に心がけて対応していきます。</p>		
評価委員の意見	充実しているが、独自の存在をアピールしてほしい。		

### 18 NPO等と連携した学習活動の充実を目指します。

事業名	ジュニアレンジャープログラム	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	<p>自然観察教室に規定回数以上出席し、かつ、ジュニアレンジャー試験を受験し、合格した子どもたちをジュニアレンジャーに認定し、自然観察教室より少し高度な自然について学習する機会を提供する。講師にNPO法人富士山自然保護センターに依頼し、本栖高原の調査を行う。</p>		
取組の状況と今後の方向性	<p>H26は、17名がジュニアレンジャーに登録し、年3回鳥・昆虫・植物について里山でのミニ調査を行った。今後も富士山自然保護センターと共同で調査の結果を活用し、継続して行って行きたい。</p>		
自己実績・自己評価	<p>調査を始めて、3年たって、船津の里山、梨ヶ原、本栖高原とデータが収集された。参加者も自然観察教室より詳しく自然について学習できると好評である。今後は、H27は河口地区を調査していく予定。</p>		

評価委員の意見	よい取組が実行される。
---------	-------------

#### 4 家庭・地域の教育力の向上

##### 基本方針

すべての子どもは、次代を担う希望の存在です。今や子育ては、親だけの役割、家庭内で完結するものでなく、社会的に求められている事業です。本町では、家庭教育の充実に積極的に取り組むとともに、豊かな人間性や社会性を育むため、スポーツ活動や文化活動、自然体験や生活体験、ボランティア活動、世代・地域間交流、国際交流など、青少年が様々な体験ができる機会や場の提供を行います。また、関係諸団体、機関と連携協力し、青少年の育成環境の整備をはじめ、「地域で子どもを見守り、育てる社会環境づくり」を進めます。

##### 施策の内容

- ①家庭教育の充実
- ②地域で子どもを育てる環境づくりの推進
- ③子育てネットワークの推進

##### 主な事業

19 保護者等の積極的な家庭教育講座等への参加や将来親となる子ども達への学習機会を提供します。

事業名	2歳児：ワイワイくらぶ、3歳児：親子ふれあい教室	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	講師が、発達段階を意図した身体表現、言葉表現など遊びを通して身につけていく。同年齢の子を持つ親同士が、子育てについて一緒に考えていく機会の提供。また、親子で一緒に遊ぶことの大切さとその方法を指導する。子育ての悩みを解消できるような情報交換の場の提供をする。		
取組の状況と今後の方向性	3歳児教室は、参加者が多いので、2組に分け、各20回教室を開催。69組の親子で、述べ2,190人参加。親学プログラムを深めていきながら、今後も開催していきたい。(2歳は25組 403名)		
実績・自己評価	発達の個人差がいちじるしい時期だが、専門講師の指導の下、充実した講座が展開されている。ワイワイくらぶは、年間を通して親子のスキンシップ遊びを行い家庭に持ち帰ることができ、親子ふれあい教室は、前半親子一緒に活動を、また、後半母子分離を行って親向けの講座を実施する事で参加者から好評を得ている。		
評価委員の意見	充実した取組で好評である。		

20 積極的な広報活動を展開し、命の尊さ、思いやりなどを育む教育を推進します。

事業名	子ども教室 funfun くらぶ	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	子どもたちの安全・安心な拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得		

	て、様々な体験活動や交流活動を行う。子どもたちの創造性や自主性、社会性を養い、児童の健全育成を図る。「こどもらだより」と一緒に「funfun だより」を発行し、広報する。
取組の状況と今後の方向性	Funfun くらぶ指導員を中心に、土日及び長期休暇に様々なイベントを開催。H26は、40回開催し、述べ568人の参加。幅広い体験学習の場として今後も展開して行きたい。
実績・自己評価	小学生の発見と工夫を大切に、オリジナリティー溢れる企画をしている。参加者からのアンケートも重要視し、子どもたちの声を反映させている。脳トレを楽しみにしている児童が増大、毎月実施することにした。ポイントがたまるうれしさも好評を得ている。
評価委員の意見	様々な取り組みをよく行っている。

21 青少年育成組織の充実、体験活動推進体制の整備を進め、地域活動への子どもの参加を推進します。

事業名	自然観察教室	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	自然に対する考え方や心を育むには、多くの体験を重ね、本物に触れることが大切だという趣旨のもと、南都留理科サークルの先生を講師にして、自然の宝庫である富士河口湖及び周辺地域の自然について学ぶ。		
取組の状況と今後の方向性	小学4年生から中学生を対象に年10回の教室を開催。3年周期に見学場所等を変え、毎年新たな発見が出来るよう工夫している。延べ、403名の子供たちが参加。40年続いている教室であり、今後も継続して行きたい。		
自己実績・自己評価	毎年、毎回理科サークルの先生方が、子どもたちに普段出来ない体験をする機会を提供している。参加者は、体験はもとより、他学年、他学校の生徒との交流も出来ている。		
評価委員の意見	充実した取組が長年継続していて好評である。		

22 指導者、リーダーの養成講座を開催します。

事業名	ジュニアリーダープログラム	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	各地区で活躍するジュニアリーダーが一同に集い、他学校、他学年との交流やジュニアリーダーとしての資質向上のための研修会を開催する。		
取組の状況と今後の方向性	ジュニアリーダーとして子どもクラブ球技大会の運営を担う他、各地域での育成会活動等で役に立つ研修を行っている。今後も引き続き実施していく。		
実績・自己評価	ジュニアリーダー最大のイベント球技大会で、運営全体を子どもたちに任せている。委員長をはじめ、各係ごとに業務をこなしている。中学生が大人に交じって業務を遂行することを経験できる機会となっている。		
評価委員の意見	良い取組を行っている。		

23 地域における声かけやあいさつ運動を展開し、防犯対策の啓発を推進します。

事業名	青少年育成富士河口湖町民会議	評価委員の評価	C
事業の趣旨・概要	町の青少年に関係する役職や育成会・子どもクラブの役員などで組織しており、青少年活動に対する補助金を出したり、研修等を行う。		
取組の状況と今後の方向性	各地区青少年活動に対しての補助金の繰出しや、各地区の事例発表での研修や生徒指導担当による地域への啓蒙を行っている。組織が大きく、ネットワークに大きな問題がある。組織のあり方も含めて検討していく必要がある。		
実績・自己評価	予算削減、事業の見直しにより、H26 年度から補助金の削減、事業内容の見直しを行った。今後も県や他市町村の動向を見ながら、町民会議自体のあり方を考えていく必要がある。		
評価委員の意見	様々な取り組みを検討する必要がある。		

## 24 人材の育成、相談体制の充実を図り、地域で子どもを見守り、育てていく、地域ぐるみの子育て支援を進めます。

事業名	教育相談	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	就学前から中学生までの子どもを持つ親が抱えている問題に対し、子育てや教育問題の専門家に悩みを聞いていただき、問題解決の一助とする。		
取組の状況と今後の方向性	認定カウンセラーを招き、個別相談（回 40 分×4 名）と相談会を隔月で開催。子育てに悩む親たちの一つのよりどころとして継続していく。		
実績・自己評価	県内外で活躍されている先生を相談者として招いているので、個別相談も順番待ちの状態になっている。相談者からも大変好評である。		
評価委員の意見	回数を増やし要望に応じていく必要がある。		

事業名	こどもらぶち教育相談	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	日ごろ感じる子育てに関する疑問や悩みなどを座談会方式で学び、話せる場の提供を行う。講師のアドバイスを心得て悩みの共通理解を図り、共に子育ての楽しさを見つけ出す。		
取組の状況と今後の方向性	年 5 回座談会方式で開催。述べ 62 名が参加。今後も実施していく。		
実績・自己評価	年齢、発達は様々だが、参加者が座談会で話す内容は共有できるものが多く、講師のアドバイスも大変わかりやすいと好評価を得ている。親子関係の基礎が築きあげられる乳児期に必要な事業である。		
評価委員の意見	よい取組で好評である		

## 5 歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成

### 基本方針

これまで旧町村ごとに取組まれてきた文化、芸術など様々な活動を住民の財産として、積極的な事業展開を行い、住民意識の向上を促していきます。また、各文化施設は観光産業との連携を強化しな



がら、住民をはじめ県内外からのたくさんの方々が訪れ交流が図れる機会をつくとともに、それぞれの文化の担い手を育成していきます。

歴史・文化財関係においては、長い歴史のなかで育まれてきた有形、無形の文化遺産を、その担い手を育てながら保存しその活用を図っていきます。また、本町には、永く後世に残していかなければならない貴重な文化遺産が多くあると思われ、放置しておくこと消滅、散逸してしまうおそれがあります。これら文化遺産の調査・研究を進め、その保存と活用や次世代への伝統文化継承のために、町内の学校や地域との連携を図ります。

富士山は、その美しい姿が様々な芸術作品の主題となるなど、日本人の美意識と深く関連し、多くの人々に感銘を与え続けている名山です。住民の意見を反映しながら、その富士山を「世界文化遺産」として、後世に継承していきます。

## 施策の内容

- ①文化遺産の保護
- ②芸術・文化活動の支援・充実
- ③文化施設の整備・保全

## 主な事業

**25** 有形、無形の文化遺産を後世に残していくため、保護の啓発や維持管理の支援、後継者育成に努め振興を図ります。

事業名	「河口の稚児の舞」調査事業	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	国の記録選択を受けた「河口の稚児の舞」の継承のための調査研究を25年度から3年間かけて実施する。		
取組の状況と今後の方向性	まずは「河口の稚児の舞」調査委員会を組織し、平成26年度から本格的に調査活動を行い、27年度までに報告書の刊行をめざす。		
実績・自己評価	平成26年度より本格的な調査に着手。関係資料調査、聞き取り調査、祭典調査等を実施し、「河口の稚児の舞」の由来、変遷等をたどる手がかりが蓄積された。		
評価委員の意見	調査、研究をよく行っている。		

**26** 文化財の散逸を防ぎその活用を図るため、保存施設の整備に努めます。

事業名	勝山歴史民俗資料館等の活用	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	有形文化財・民俗文化財等の収集・保管・展示施設として、その機能を果たせるよう施設の中身を検討し、改善していく。		
取組の状況と今後の方向性	平成15年の合併以前から続いていた企画展示室における写真展を撤収し、富士山世界文化遺産のパネル展を新規に設置。世界遺産の意義、構成資産の紹介などを行っている。また、企画展示室の床を貼り換え、展示室のイメージの刷新を図った。2階の歴史資料展示室に町の年表パネルを設置し、町全体の歴史を概観できるよう配慮を図った。		

実績・自己評価	資料館内の案内表示、展示室の名称等を新たなパネルで作成し表示したため、資料館の印象が改善された。次の段階では、展示品を系統ごとに整理し、個々の資料のキャプション等の整備に努めたい。
評価委員の意見	さらなる活用方法を検討してほしい。

27 地域の歴史と文化資源の調査を行い、伝統文化を継承するため、後継者の育成を目指します。

事業名	古文書調査事業	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	町内に現存する古文書の整理・調査を行い、調査の技術等も鍛錬する		
取組の状況と今後の方向性	古文書調査会により、町内の古文書を整理し、調査の方法等も継承している		
実績・自己評価	整理・調査が完了した一群の古文書を目録として刊行した		
評価委員の意見	後継者育成も検討してほしい。		

28 指定文化財の保存を推進し、富士山の文化的価値の啓発に努めます。

事業名	世界遺産富士山講座（旧・歴史・文化財講座）	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	住民に地域の世界遺産及び文化財の価値を啓蒙し、保存の啓発を図る		
取組の状況と今後の方向性	定期的な講座を年間通して実施するとともに、出張講座等を通して文化財保存を啓発している。今後のこのような方法で継続していく。		
実績・自己評価	講座には多くの住民が参加し、のべ289名の住民の参加があった。各種団体へのお出張講座も24回実施した。		
評価委員の意見	講座の回数も増え、充実している。		

29 埋蔵文化財調査並びに埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査を行います。

事業名	町内遺跡分布調査・埋蔵文化財発掘調査	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	地下に埋蔵された人間の活動の痕跡、土地の利用履歴から町の歴史を復元する。		
取組の状況と今後の方向性	開発行為に伴う埋蔵文化財の試掘確認調査も4件実施。工事立会2件。平成25年度に発掘調査を実施した河口地区の鯉ノ水遺跡の整理作業を行い、年度末に調査報告書を刊行した。		
実績・自己評価	富士河口湖町として初めて発掘調査報告書を刊行することができ、町の文化財保護行政の新たな一歩となった。調査成果は、町内にとどまらず山梨県及び全国的な内陸交通等を検討するうえで重要な資料であり、今後の活用が期待される。		
評価委員の意見	調査、公開等よく行っている。		

30 地域における自主的な文化活動を振興するとともに、身近で優れた芸術・文化に触れる機会を醸成するため、町内の芸術・文化団体を育成し活動を支援します。

事業名	梶原林作基金助成金事業	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	故梶原林作氏のご厚意により寄付された基金を原資に、平成7年から町内の		

	芸術文化団体の活動に対し補助金を出し、育成を図っている。
取組の状況と今後の方向性	<p>年度当初と夏に申請を受け付け、町内有識者で編成する審査会の審議、決定を経て、各団体に補助金を交付している。基本的には、補助金は基金の果実を財源とするものであるが、近年、預金利率も低く、予算額の大半は町一般財源に頼っており、減額されることが危惧される。</p> <p>今後も、個性豊かな魅力ある・活力ある地域づくりのための事業を支援していきたい。</p>
実績・自己評価	平成26年度は受付申請期間を2回に分け募集を行ない、4団体より申請があり、審査の結果4団体すべてに助成した。
評価委員の意見	財源等の問題を検討する必要がある。

31 芸術文化への参加機会を作ることにより住民が芸術文化にふれあい、感性を高め、新たな文化を創出し、根ざすことにより、地域の活性化を図ります。

事業名	富士山河口湖音楽祭事業他 各種文化芸術事業	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山河口湖音楽祭2014 8月9日(土)～23日(土)15日間開催 8月23日(土)音楽祭ファイナルコンサート 佐渡裕指揮シエナ・ウインド・オーケストラコンサート 他 ※7月12日(土)～プレ演奏会</li> <li>・河口湖ステラシアターイベント事業 ※主な事業 7月19日(土)スターダストレビューコンサート 他</li> <li>・河口湖円形ホールコンサート事業 ※主な事業 11月21日(金)ウィーンフィル元メンバー トーマス・ヴィンクラットヴァイオリン演奏会 他</li> <li>・富士河口湖町音楽活性化事業、子供のための音楽プロジェクト2014 11月19日(水)～21日(金)トーマス・ヴィンクラットミニ演奏会 他</li> </ul>		
取組の状況と今後の方向性	<p>平成14年から世界的な指揮者佐渡裕氏と一緒に立ち上げた住民参加型創造音楽祭「富士山河口湖音楽祭」は、ステラシアター、円形ホールを拠点に 美術館、五合目などでもミニ演奏会を開催した。今後もホールで行われる各事業が、町民にとっての精神文化に貢献する直接的な効果と、経済活性化など間接的な効果と相互に向き合い、学校、各観光施設等、町内のあらゆる団体と連携を強化し、また、各演奏家、音楽事務所、旅行会社、各報道機関との協力体制も引き続き強化していく。併せて、企画の更なる充実、ボランティアの育成、協賛金の更なる確保等ホール運営に直結する内容とも向き合い、地域に親しまれるホールづくりを目指していく。</p>		
実績・自己評価	富士山河口湖音楽祭は、県外からもたくさんの来場者があり、毎年参加者が2万人を超える。音楽プログラムを通じて、町ぐるみで来場者を受け入れており、音楽を通じての町の魅力発信にもつながっている。		
評価委員の意見	好評であるが、広報、資金等の検討もしてほしい。		

### 32 多様な文化芸術活動に対応するため、文化施設を整備し、その保全に努めます。

事業名	文化施設整備事業 (河口湖ステラシアター、河口湖円形ホール、 河口湖美術館、河口湖ミュージズ)	評価委員の評価	C
事業の趣旨・概要	各施設が建設から約20年以上の歳月を経過しており、一部老朽化してきている箇所もあり、定期的な修繕が必要となっている。		
取組の状況と今後の方向性	河口湖ステラシアター 平成7年5月開館 河口湖円形ホール 平成6年12月開館 河口湖美術館 平成3年4月開館 河口湖ミュージズ館 平成6年6月開館 各施設ごとに、毎年修繕箇所を予算化し対応し、大規模修繕は、緊急性の度合いも調整しながら、補正予算対応も含めて、施設の維持管理に努める。		
実績・自己評価	各施設共に年度予算の中で修繕をしているが、20年以上経過していることもあり、大規模修繕が必要になってきている。しかし、これまで大規模な予算をかけて修繕を行っておらず、修繕計画を立て実行に移していく時期を設定しなければならないと思われる。		
評価委員の意見	改善、修繕の課題が多数ある。		

## 6 スポーツ・レクリエーション活動の支援

### 基本方針

スポーツ施設の計画的な整備を行い、その施設管理について効率的な管理運営が図れるよう指定管理者制度の導入を検討しながら、住民誰もがそれぞれの体力、年齢等に応じた生涯スポーツを振興していきます。

また、スポーツ・レクリエーション振興の担い手となる指導者の育成を図るとともに、生涯スポーツ及び競技スポーツの推進を図ります。

さらに、全住民参加型の総合型地域スポーツクラブの充実、普及を目指します。

### 施策の内容

- ①生涯スポーツ・レクリエーションの振興
- ②スポーツ環境の充実
- ③競技スポーツの振興

### 主な事業

### 33 総合型地域スポーツクラブ “クラブ富士山” の活動において各種の教室を開催し町内全域で取組めます。

事業名	クラブ富士山による各種教室の開催	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	誰でも無理なくいつでも楽しめるスポーツ・レクリエーションを通じ健全		

	<p>な心身の育成や生涯学習の発展、健康維持や地域社会の連携・活性化を図り、スポーツ・レクリエーション等が生活の一部になる地域社会の実現を目的とする。総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士山」の活動において各種の教室を開催し、町内全域で取り組む。</p>
取組の状況と今後の方向性	<p>ピラティス・ヨガ・クラシックバレエ・バトミントン・ZUMBA・スキー教室・マット運動・スケート教室など多種にわたるスポーツ教室等を開催。今後も誰もが無理なく楽しくスポーツ・レクリエーションを行える環境づくりを目指し、新規事業を展開するなど会員数や参加者の増加に努める。</p>
実績・自己評価	<p>会員数は149名、参加人員は延べ4639人で教室開催。日数述べ364日実施。</p> <p>昨年より会員が減った。会員限定プログラムを減らしたこと、無料プログラムを有料にしたことが大きな原因。</p> <p>登録料や参加料がかかるため、会員数の増加やクラブ経営としての運営が難しい。</p>
評価委員の意見	<p>会員数、場所、参加料等課題がある。</p>

### 34 指導者・ボランティアの育成を推進し、湖を利用したスポーツの普及を促進します。

事業名	スポーツ指導者・団体・グループの育成	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	<p>湖を利用したスポーツを通じ心身の健全な育成や、生涯学習の一環として全国から集まる選手と交流を図ることを目的とする。</p> <p>カヌー競技やボート競技を普及させるため、指導者及びボランティアを育成する。</p>		
取組の状況と今後の方向性	<p>26年度は、高校生の最大のスポーツイベントである、インターハイのカヌー及びボート競技が本町で開催された。精進湖ではB&amp;G全国少年少女カヌー大会を開催し、河口湖では河口湖レガッタとしてボート大会を開催した。</p> <p>今後も底辺の拡大をはじめ町民の意識改革を行い競技人口や指導者・ボランティアの増加をめざす。</p>		
実績・自己評価	<p>カヌー及びボート競技については、インターハイがあったため、大会運営に多くのOBや父兄、そして地域の方に協力していただいたことは、競技の理解と普及につながった。これを機会に湖での競技の普及と援助、そして、全体のスポーツ指導者の育成への道筋を作っていく必要がある。</p>		
評価委員の意見	<p>育成や普及のさらなる充実を図ってほしい。</p>		

### 35 町民プールの有効活用を図り、住民の健康とスポーツ振興を図ります。

事業名	スポーツ交流事業の推進	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	<p>町民プールについては、民間活力による自主事業を積極的に取り入れ、住民の健康やスポーツを振興する。</p>		
取組の状況と今後の方向性	<p>町民プールの無料開放を周知し会員の増加や利用者数の増加をめざし、施</p>		

方向性	設の有効活用を行う。総合型地域スポーツクラブ「クラブ富士山」でもスポーツ教室の種目にプールの利用を行うなど、施設の有効利用を今後も継続していく。
実績・自己評価	スイミングにフィットネスを利用し、平成26年度の町民年間利用者数は17,128人である。各地区での体育祭がなくなっていく傾向があり、それに歯止めがかからない状況が続いている。町の体育協会の役員、そして、町スポーツ推進委員の方々とも話し合いを持ち、町民及び地区民がスポーツによって交流できる場の設定についての議論を広めていく必要がある。
評価委員の意見	広報、周知等で利用増を図り、継続性のあるものを行ってほしい。

### 36 ウォーキングのさらなる普及に努めます。

事業名	もみじマーチ、町民皆歩、ウォーキング協会による月例ウォーキング大会の開催	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	ウォーキングに関心を持ち普及することで、町民の健康づくりを図る。毎年恒例のもみじマーチと年4回の町民皆歩の実施と、月例ウォーキングを開催して、町民の健康づくりに努める。		
取組の状況と今後の方向性	ウォーキング協会による毎月のウォーキングや富士河口湖もみじマーチ、町民皆歩を開催し、健康づくりに努めている。健康増進課と連携を図り、会員数の増加や参加者の増加をめざす。		
実績・自己評価	もみじマーチの開催やウォーキング協会による月例会、町民皆歩を行った。ウォーキング協会の会員は434人で、昨年よりわずかに増えた。もみじマーチへの町民参加も若干増えたが、更なる普及活動を行う必要がある。		
評価委員の意見	参加者も多く、充実している。		

### 37 スポーツ施設の計画的な整備を推進します。

事業名	スポーツ施設の計画的な整備	評価委員の評価	C
事業の趣旨・概要	生涯スポーツを推進するため、利用者が体育施設を有効に活用できるような環境整備を行う。体育館4箇所、グラウンド11箇所などの体育施設の活用のほか、学校グラウンド、体育館も夜間開放するなど、有効活用を図る。		
取組の状況と今後の方向性	合併前からの各施設が老朽化しているため、適正な配置や延命化に向け施設の維持管理、改修計画を図っていくための現状把握をしっかりとる。		
実績・自己評価	体育施設の利用団体は団体、利用者は延べ79,327人で昨年より大幅減となっている。町民体育館が1ヶ月半ほど耐震調査のため使用できなかったことが大きい。 26年度は各施設の倉庫などの整理、くぬぎ平スポーツ広場の南側側溝と北東側のフェンスの整備、鐘突堂スポーツ広場の枝落としなどを行った。来年度以降も施設の長寿命計画ともリンクし、できるところからの整備を行っていくよう、計画的な整備を行っていく。		
評価委員の意見	予算を確保し、計画的な整備が望まれる。		

### 38 体協・スポーツ少年団等各種競技団体の指導者の育成を図ります。

事業名	各種競技団体の指導者の育成	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	体協・スポーツ少年団等各種競技団体の指導者の育成を図る。 指導者講習会等への推薦・指導員研修会への周知。		
取組の状況と今後の方向性	指導者講習会等への参加の推薦や研修会への出席の依頼を行っている。各種競技団体の指導員研修会及び講習会等への出席・参加促進を行い育成する。		
実績・自己評価	指導者講習会等への推薦、指導員研修会への案内を通じて指導者育成を行ってきた。生涯スポーツを推進するためには、各種競技団体の指導者への更なる育成強化が必要であるが、26年度はインターハイという大きな事業の準備と実施で十分な対応ができなかった。		
評価委員の意見	時流に即した育成を図るための見直しが必要と思われる。		

## 7 男女共同参画の推進

### 基本方針

家庭や職場、地域社会のあらゆる機会への女性参加の確保や安心して子育てができるとともに、男女の個性を尊重する環境整備や「ふじサンサンプラン」を着実に推進します。

### 施策の内容

#### ①男女共同参画社会の実現

### 主な事業

#### 39 「ふじサンサンプラン」の推進と定期的な見直しを進めます。

事業名	男女共同参画推進事業	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	●家庭では、家族一人ひとりがお互いを認め合い、自立と助け合いが実行され、職場では、個人は職業人としての能力を高め、互いに協力し合う男女差別のない職場環境が実現され、地域では、すべての人が安全で安心して暮らすことのできる、男女でバランスのとれた地域づくりが遂行された、男女共同参画社会の実現を目指す。		
取組の状況と今後の方向性	①男女共同参画に関する教養、知識を身に付ける講座の開催。 ②女性達が、生活していく中で抱えている心配事や悩みを聞く相談所を設置し、女性相談員がその問題の助言や指導に当たる。 ・今後も、男女共同参画社会を目指し啓発活動を進めて行く。また、女性相談所についても相談体制を継続して行きたい。		
実績・自己評価	①「女性と肌の健康」講座（参加人数16名）、「食と体の健康」講座（参加人数13名）の開催。		

	<p>「男の料理教室」の開催。(参加人数14名)</p> <p>②女性なんでも相談(3人/年)</p> <p>・それぞれの講座で、参加者から好評を得ており大いなる啓発となった。女性なんでも相談については、広報誌・HPを通し周知しているが相談件数は少ない。</p>
評価委員の意見	啓発が進み効果が出ている。

#### 40 男女の固定的な役割分担意識の是正を促進します。

事業名	男女共同参画推進委員会による啓発活動	評価委員の評価	A
事業の趣旨・概要	●男女の固定的な役割分担意識を是正するために、様々な行事やイベントを通じて啓発活動を行う。		
取組の状況と今後の方向性	<p>①広く町民の皆さんに効果的な方法として、毎月発行している広報誌記事掲載。</p> <p>②子どもの頃からの意識付けも重要な為、小中学生に冬休みを利用し「標語・俳句・川柳」等の募集を行い、「男女共同参画フォーラム」にて優秀作品を表彰し発表を行う。</p> <p>③「ジェンダー紙芝居」について、CATV放送や「男女共同参画フォーラム」にて実施。</p> <p>④町誕生祭及び各地区公民館祭りにおいて、「標語・俳句・川柳」等優秀作品の展示を行う。</p> <p>⑥平成27年3月、「男女共同参画フォーラム」開催。</p> <p>・今後も広報誌、様々な行事を通し啓発活動を進めていきたい。</p>		
実績・自己評価	<p>①毎月、広報誌に「ふじサンサン」ページを掲載し啓発活動を実施。</p> <p>②～⑥町誕生祭や各地区公民館祭りにおいて、「標語・俳句・川柳」等の優秀作品展示を始め、3月の「男女共同参画」フォーラムにおいて、「標語・俳句・川柳」等優秀作品を表彰・発表する事、及び「ジェンダー紙芝居」を実施する事により、多くの町民の皆さんへの意識付けを強めた。</p> <p>・成果の出にくい活動だが、焦らず「継続」して啓発活動を行って行きたい。</p>		
評価委員の意見	様々な活動を幅広く行っている。		

#### 41 委員会や審議会等への女性の参画や男女が共に社会活動を続けられる支援体制の充を図ります。

事業名	男女共同参画推進委員会の啓蒙活動	評価委員の評価	B
事業の趣旨・概要	●推進委員会において「男性の育休に向けて！」の推奨活動を行い、行政や企業内などで、社会活動の支援体制を進めていくための具体的施策などを提起・提案していく。		
取組の状況と今後の	①町役場及び地元企業へ「男性の育休に向けて！」の推奨活動を行う。		



方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、地元企業への推奨活動を行って行きたい。</li> </ul>
実績・自己評価	<p>①推進委員会職場部門において、町役場及び地元企業へ「男性の育休に向けて！」の推奨活動を行い、それぞれ社員・職員に周知された。男女共同参画社会実現の為の“はじめの一歩”として、男女が共に「仕事」と「子育て」を両立できる環境の整備は必要である。「男性の育児の為に有給休暇の取得」の推奨は、その意識啓発に繋がったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年4月現在、委員会の女性割合は、総委員数の4.4%（前年対比同）、審議会の女性割合は、総委員数の21.3%（前年対比1.4%増）となっている。</li> </ul>
評価委員の意見	さらなる周知・徹底が望まれる。

## 第4章 評価委員による総合的所見

今回、外部評価を行うにあたり、各担当者より説明を受け、それに対する質問を行い、事業内容の理解に努めるとともに、評価委員同士でも意見、情報交換を行い、さらに知識や理解を広げ、評価に資するよう手段を講じた。そうした中で、教育委員会の現状と各事業に対する町民の参加状況や反応、また意見や疑問などもわかってきたと思う。

教育委員会の活動状況については、教育委員の会が、定例会、臨時会と多数開催され、課題や要件に積極的に取り組んでいる姿勢が伺える。公開や情報発信については、今日的に必然の流れであり、昨年度からの課題でもあるので、早急に進めてほしいところである。首長との連携については、時間的にも難しい点があると思うが、もっと密にすることが望まれる。学校訪問、教育施設訪問についても回数を増やして現場を直接見聞きして、きめ細かな対応を心がけてほしいと思う。

人を育む教育、五感文化のまち事業については、幼児教育は、概ね充実して公表を得ている事業が多いと思われる。学校教育は ICT 活用、学力向上の取組、特色ある教育課題の実施等で、積極的な取組を行っているが校舎等の修繕、町単加配事業にはさらに力を注いでほしい。教育センターにおける教育相談や教職員の研修は好評であり、今後もさらに充実、拡大を図ってほしい。特別支援教育については、連携、共有化が図られ、さらにきめ細やかな対応をお願いしたい。学校の統廃合については大きな問題ではあるが、将来を見通したランドデザインを描くことが重要であると思われる。

生涯学習の活動支援については、対象が広く、周知、広報等大変なことが多いが様々な取組を行うなかで効果を上げ、好評なものが多いと思える。課題を克服しながら、さらに充実、拡大させていってほしい。

家庭、地域の教育向上については、幼児、児童、生徒を対象にした事業が概ね好評であるが、さらに要望等にこたえていく必要があると思われる。

歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成については、各種の事業によく取り組んでいて効果を上げているが、文化芸術事業は、周知、広報を工夫し、町民に広く興味関心を持ってもらう必要があると思える。

スポーツ・レクリエーション活動の支援は、育成や普及が図られているが、予算確保や指導者の育成について見直す必要があると思われるものもあり、検討してほしいところである。

男女共同参画の推進については、啓発や啓蒙が進んで効果が出ているが、さらに周知徹底を図る必要があると思われる。

全体として限られた担当者、潤沢でない予算等、厳しい環境の中でそれぞれ真摯に取り組んでいることに敬意を表するところであるが、現状に満足することなく、さらに奮闘努力を期待するところである。また予算面に関しては、財政的に厳しい折ではあるが、子どもたちの未来のため、町民の喜ぶ姿や笑顔のためにできる限りのことをして、安全、安心の確保や事業の充実を図ってほしいところである。

## 第5章 総合評価

(評価委員からの意見を踏まえ、総合的評価を行い、次年度への課題及び今後の方向性を示す。)

本年度からの教育委員会評価については、平成25年度3月に公表した「第1次総合計画後期基本計画」における教育委員会関係の事業を対象に、その内容の評価及び進捗状況の評価を行いました。

評価委員には、教育委員会活動の5項目及び学校教育課、教育センター、生涯学習課、文化振興局の行った平成26年度41事業について、関係課(局)の係長以上の職員から、約5時間にわたり説明及びヒアリングを行い、各事業の評価及び意見をいただきました。

評価委員の点検評価した結果、概ねこの1年間の活動は全体的に良好であったと評価していただきました。

### (学校教育課)

#### 1 教育委員会の活動状況について

##### \* 評価・課題について

教育委員会の活動について、課題や要件に対して積極的に取り組んでいると評価を受けましたが、教育委員会の会議の公開、住民への情報発信は、早急に進める。町長との意見交換会の回数を多くする。教育委員の学校また教育施設の訪問回数を増やしてきめ細かな対応をする。

##### \* 今後の方向性について

平成27年度に地方教育行政に関する法律が改正になりました。民意を代表する首長と教育委員会との連携の強化、首長と教育委員で構成される「総合教育会議」の設置により首長と教育委員との協議や意見交換の回数を増やします。開かれた教育委員会として、会議の公開や傍聴、会議の内容について公表します。教育委員の学校また教育施設への訪問については、教育委員の意見を聴く中で回数を増やしていくことを検討します。

#### 2 学校教育の充実について

##### \* 評価・課題について

教育機器や学力向上、特色ある教育課題に積極的に取り組んでいると評価を受けましたが、校舎等の修繕や町単加配事業についてさらなる力を注ぎ、特殊支援教育では連携や共有化が図られ、きめ細やかな対応を求めています。学校の統廃合について、ランドデザインを描くことが重要であると指摘されました。

##### \* 今後の方向性について

教育環境を充実させるために、町単教諭・ALT・支援員・スクールソーシャルワーカー(SSW)などの人的配置を進めます。

教育センターでは、教育相談、教職員研修や校外学習や総合的学習などの内容を更に充実し、加えて、学力向上には家庭学習が大事であることを学校及び家庭と連携して啓蒙していきます。

老朽化している船津小学校の改築については、建設検討委員会で喫緊の課題として協議を積極的に進めていきます。

学校の統廃合は、大きな課題であるので、まちの人口ビジョン、児童生徒数、財政状況、地域のまちづくり等を考慮しながら検討をしていく。

## (生涯学習課)

### 1 幼児教育の充実について

#### \* 評価・課題について

子ども未来創造館で行っている事業については、健康増進課、福祉推進課、生涯学習課が連携し、情報も共有化出来ていると評価をされました。課題だった遠隔地からの参加者について、昨年度は、上九一色地区に送迎の車を出すといった試みを行って見た。

#### \* 今後の方向性について

引き続き、事業の内容を精査しながら、マンネリ化しないよう事業を進めていく必要があります。また、遠隔地から送迎を実施するだけでなく、遠隔地で事業を開催できるような対策を講じていきたいと考えます。

### 2 生涯学習活動の支援について

#### \* 評価・課題について

生涯学習ということで、範囲も広く、限られた職員体制の中で、事業をすすめる事のむずかしさがあることを理解していただく中で評価をいただきました。課題としては、各事業にそれぞれあり、1つ1つ克服していき、さらなる充実、拡大を行っていきたいと考えます。

#### \* 今後の方向性について

生涯学習の支援として行っている各種事業に対して、現状の把握を行うと共に、住民のニーズや刻々と進む情報化社会の中で、今、何が重要かという観点のもと、時代にあった学習支援を行っていく必要があると考えます。

### 3 家庭・地域の教育力の向上について

#### \* 評価・課題について

昨年に引き続き、家庭の多様化や地域意識の希薄化、個人情報保護などにより、家庭や地域での教育力向上を目指していくには難しい状況にあるなかで、一定の評価をいただきました。課題であった町民会議のあり方も補助金の削減等を行う中で、改善の一步として行いましたが、引き続き審議していきます。

#### \* 今後の方向性について

幼児から児童・生徒に対して好評価を得ている事業については、継続して行っていく中で、更なる充実を図っていきます。また、地域での教育力の向上については、育成会や子どもクラブなどの活動の活性化を促せるような施策を実施していきます。

### 4 歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成について

#### \* 評価・課題について

有形、無形の文化遺産を後世に残す取り組みとして、国庫補助で実施している「河口の稚児の舞」調査事業については、調査委員会による詳細な調査の結果、重要かつ有効な成果を得ることができた点について評価を得ました。

文化財の散逸を防止し活用を図る施設の整備として、勝山歴史民俗資料の展示替えやパネル類の更新を実施しましたが、活用の幅を広げる課題が残っています。

地域の歴史と文化資源の調査を行い、伝統文化を継承するため、後継者の育成を目指す取り組みについては、古文書調査事業の実績が評価されましたが、後継者の育成が課題となっています。

指定文化財の保存を推進し、富士山の文化的価値の啓発に努める取り組みでは、世界遺産富士山講座及び出張講座の回数や参加人数の増加といった実績が評価されました。

埋蔵文化財の調査については、平成25年度に実施した河口地区の鯉ノ水遺跡の発掘調査の成果をまとめ、町として初の発掘調査報告書として刊行することができ、文化財保護の新たな段階を迎えた点について評価を得ました。

\*今後の方向性について

歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成のため、文化財の保護事業を基軸とした活動を展開し、歴史文化の研究、教育普及、活用公開、収集保管のバランスをとりつつ、住民に価値を啓蒙して理解を深めることは継続的に必要なものです。この中で、活用公開及び収集保管に関しては課題が多く、勝山歴史民俗資料館及び本栖歴史館の施設を十分に活用できるよう努めます。

## 5 スポーツ・レクリエーション活動の支援について

\*評価・課題について

ウォーキングの更なる普及については評価をいただきましたが、他の分野においては、インターハイという大きなイベントもあったということもありますが、現状の課題をしっかりと見つめ、その解決のために、広報活動や時流に即した見直しなど新たな視点による課題解決が求められました。

\*今後の方向性について

スポーツ・レクリエーションに活動に関わっていただいている方々、クラブ富士山やポート及びカヌー関係者、体育協会やスポーツ推進委員の皆さんと課題を共有し、それぞれの分野で実施できることから取り組んでいくことを心がけます。また、スポーツ施設の計画的な整備については、政策財政課や都市整備課ともしっかり調整を図り、整備内容を吟味して予算確保に努めていきます。

## 6 男女共同参画の推進について

\*評価・課題について

男女共同参画推進については、啓蒙・啓発が進んで効果が出てきてる、よい評価を頂きましたが、さらに周知徹底を図る必要があると指摘されました。

\*今後の方向性について

現状に満足することなく男女共同参画社会実現に向け、推進委員会の活動の活性化を図り、家庭・地域・職場・学校などあらゆる場において、男女共同参画について、1人でも多くの町民が感心を持ち理解できるような事業の充実を図りながら啓発活動に努めていきます。

## (文化振興局)

### 1 歴史・伝統・文化の保護継承と新たな創造育成について

#### \*評価・課題について

梶原林作基金助成金事業を通じ、魅力ある地域づくり・自主的な文化活動振興事業に対し支援を行っており良い評価をいただきましたが、原資となる基金の果実は近年の預金利率低下により低額となっており財源の確保が課題となっています。

芸術文化への参加機会をつくり、地域の活性化を図ることについては、音楽文化を通じて町の魅力を発信する重要な領域を担っている富士山河口湖音楽祭をはじめ、各種文化芸術事業を行っており良い評価をいただいています。

文化施設の整備については、各施設とも建築から20年以上経過し、老朽化が懸念されるなか早期に修繕計画を立て整備する必要があります。

#### \*今後の方向性について

梶原林作基金助成金事業については、新たな財源確保を模索、検討していきます。

芸術文化による地域活性化については、今後も引き続き、魅力ある地域づくり・活性化を目指し、地域に親しまれる事業内容となるよう努めていきます。

文化施設整備については、関係部署と協議しながら早期に修繕計画を立て整備するよう努めていきます。